

空家とまちのリノベーション ～空家は“まち”を変える力になれるか？

空家とまちの関係を読み解き、空家の利活用と地域の連携をどのように進めたらよいのか？ こうした疑問に答えるために、すでに空家（空き店舗）を活用した事業により、地域との連携を模索する取組が行われています。

今回は、いくつかの取組事例をもとに、空家を活用したこれからの地域連携の進め方やまちの姿を考えてみます。



藤沢市の空家の状況や空家等対策計画の内容についてもご説明します。

申込み

2月10日(金)まで
に住宅政策課へ

電話またはメールで
※下記の2次元コードからも
申し込みできます。
※定員になり次第締め切り
ます。



◆当日は、マスクを忘れずに着用してください。

- 日時 2023年 **2月19日(日)**
午後1時30分～午後3時30分
- 会場 藤沢市役所本庁舎5階会議室
- 事例 長後商店街及び鵠沼海岸商店街での
取組
※裏面参照
- 講師 湘南工科大学地域連携センター長
総合デザイン学科教授
禹在勇(ウ ザイユウ)氏
- 対象 ・空家を利用したい所有者
・空家を利用して事業を行いたい方
・空家の利活用に関心のある方など
どなたでも
- 定員 先着 **30人**



問合せ・申込先 **藤沢市住宅政策課**

藤沢市朝日町1-1 電話0466-50-3541
メールアドレス fj-jutaku@city.fujisawa.lg.jp

商店街の活性化を目指した大学生たちの取組

長後商店街の会館施設を活用してカフェ、そしてコワーキングスペースを開設するなどの居場所づくりに取り組む学生たちの目指すものは何か。商店街の活性化のために多世代が交流できる場をプロデュースしたこれまでの取組から見えてきたものは何か。

そして今後、解決すべき課題は何か。具体的な取組をベースに、地域連携のなかで解くべき課題を考えてみます。

長後商店街協同組合活性化プロジェクト



商店街の小さな学習スペースが発信する情報がまちを変える！

「BE-SPACE kugenuma」は、コミュニティ団体BE-GLOBALが鶴沼海岸商店街の一角の空き店舗を活用して4年前に誕生した小さな学びのレンタルスペースである。

ここが発信する小さな情報が人々をつなぎ、新たな取組を生み出している。地元商店街との連携のあり方、そして人々をつなぐために必要なものは何かを考えてみます。

BE-GLOBAL代表 新田里奈氏



地域が活性化するために必要な資源とは？

地域が活性化するためには、「点」としての活動だけでなく、「点が線に」そして「線が面に」なるような広がりをもった取組が求められる。

それを創り出すのは誰なのか。そして、活動の拠点として空家を地域資源として活用できるのか。

様々な視点から、空家を地域資源として活用するための方策を探ってみます。

湘南工科大学地域連携センター長 総合デザイン学科教授

禹在勇（ウ ザイユウ）氏

